

【海外学会報告】

2017年度 第19回韓国ケベック学会 参加報告
19^e colloque de l'ACEQ (Association Coréenne d'Études
Québécoises)
Le 18 novembre 2017, Ambassade du Canada en Corée,
Séoul

11月18日(土)に、セウルの瀟洒なエディフィスが立ち並ぶ地区にある在韓国カナダ大使館で第19回 ACEQ 定例研究会が開かれ、AJEQ を代表して、「La politique du Québec en matière d'immigration」と題するコミュニケーションを報告する機会を得ました。セウルは初めてではなく、滞在も短期でしたが、さまざまな思いがけない事が起こって刺激に富んだ経験でした。

木曜夜遅く JAL で金浦空港に着く時間から推定して、成均館大学にはおよそ23時半頃に着くだろうとパク・ヒテ先生に連絡してありましたが、正門の横にある守衛室で尋ねても何も知らないとのこと。唯一の連絡手段はパク先生のアドレス・エレクトロニックでしたので、そこまで親切に付き添ってくれた韓国人の学生にスマホからパク先生に伝言を送ってもらいました。ですが、もう0時半になろうとしていて、朝まで連絡がつかない恐れも多分がありました。もうこれは最悪近くのマクドナルドで一夜を過ごそうと思い、2時頃にカフェを注文しようとしていたらパク先生が店の中まで入って来られ、「陶山先生ですか？」と声をかけて頂きました。その時間まで辛抱強く車の中で待って下さりとてもご苦勞様でした。すぐに大学宿舎に入室、泥のように眠りました。

翌日、パク先生に大学のカフェテリアで昼食をごちそうになり、午後はゆったりとした気分で界隈を探索しました。大学街なので学生でいっぱいでしたが、セウルの物価はもう東京とほとんど変わらなくなっていることに気がきました。夕方に宿舎に戻ってみると、そこは留学生のための女子寮であることが分かり、いろんな国からの学生と話すことができました。報告するためのパワーポイントは日本を出る前に準備していましたが、にわか仕込みのハンゲルで自分の名前を付け足しました。日本語固有名詞を置き換えるのにはハンゲルはひらがなのように使えますが、実際もっと複雑でとても数日

で全てを暗記できる代物ではないと痛感しました。

学会当日には、カナダ大使館の最寄りの市庁駅でパク先生と落ち合い、カナダ大使館近くの店で会長のハン・ヨンタク先生や他の役員とおいしい韓国式デジュネを堪能しました。研究会は自分のプレゼンテーションの時以外は、全て韓国語で進行し自分にはちんぷんかんぷんでしたが、頑張らずと着席していました。カナダ大使館の図柄のきれいな絵葉書を数枚もらえたので直ぐに書き終えて、パク先生にもう少し欲しいとおねだりしたら、合計8枚を手に入れました。ハン会長の開会宣言に始まり、総会が開かれました。自分自身の報告以外には、ケベック州の英仏語の関係、グザビエ・ドランの言語とイダンティテ、レジヌ・ロバン作品の中の都市イダンティテのテーマがありました。デバタールはイー・ミンジュ先生（ソウル大学校）にお願いし、報告者の私よりもはるかに流暢な仏語で丁寧にあいまいな点や不備を指摘して頂きました。

ケベック州政府が1960年代から急に移民政策に活発になった背景には、静かな革命の世俗化、都市化がフランス系カナダ人の出生率の著しい低下を引き起こしたことがあります。州の人口比が減るとの国内比重が弱まり、且つ、カナダ憲法の改正の条件「7州以上、人口50%以上」では2大州のケベック州とオンタリオの組み合わせだけに拒否権が与えられていたのですが、人口増加が著しいアルベルタ州やコロンビ・ブリタニック州も関わってくるようになります。そこで、1867年憲法第95条を根拠にして、ケベックは独自の移民政策を展開するようになっていきます。現体制は、1991年にケベック州と連邦政府の間で結ばれた協定に基づいていて、ケベック州を目的地とする経済移民に関しては連邦政府のポイント制度とは無関係に移民を選べるようになっていきます。ケベック州に定着したいと考えている移民がカナダ大使館に行けば、「ここでは申請できません、香港にあるケベック代表部に連絡して下さい」と言われます。ケベックには人口比24%以上の割合の移民を受け入れたい希望がありますが、他方で移民の主眼は経済であるため、ケベック州の仏語社会に移民を統合させようとする政策はどうしてもトロントやバンクベールの方に移民を流してしまいます。

学会の後で、近くの韓国料理店で懇親会がありました。韓国の麦酒、焼酎をたしなみましたが、後者は寒い中、体を温めるのに大いに役立ちました。月曜朝早くに金浦空港から大韓航空で帰国の途につきました。セウルへの学会出張では多くの貴重な体験をさせて頂き、できることなら毎年でも行って

みたいなと思うようになりました。来年行くなら、今年よりもずっと韓国語が（仏語も？）できるようになりたい。千里の道も一歩から、まずはハングル検定5級から受けようと考えています。

（陶山宣明 帝京平成大学）